

4. キャンパス計画

4.1 施設整備の将来構想

4.1.2 施設整備の方針

1) 自然や人、ものとの触れ合いの中で遊びを通じた柔軟な指導が展開できる環境の整備

- ・ 幼児の主体的な活動を確保し、幼児期にふさわしい発達を促すことのできる施設を整備する。
- ・ 幼児の身体的発達を促すため、幼児の興味や関心が戸外にも向くよう、動線に配慮した園庭や遊具の配置を計画すると共に、テラス等の半屋外空間の充実を図る。
- ・ 複数の教師が共同して保育にあたる「チーム保育」の導入・実践のために必要な環境を整備する。

2) 健康で安全に過ごせる豊かな施設環境の確保

- ・ 幼児の遊びや生活の場として、ゆとりと潤いのある施設を整備する。
- ・ 幼児の健康に配慮し、園内の快適性を確保するため、採光、通風、換気等に十分配慮した施設を整備する。
- ・ 地震発生時において、幼児等の人命を守るとともに、被災後の教育研究活動等の早期再開を可能とするため、十分な耐震性能を確保する。
- ・ 幼児の安全確保を図るため、園内にあるすべての施設・設備について、多様な行動に対して十分な安全性を確保すると共に、不審者侵入等の緊急時においても活用できるシステムの確立を目指す。
- ・ 障がいのある幼児、教職員等が安全かつ円滑に生活を送ることができるよう、障がいの状態や特性、ニーズに応じた施設を整備する。その際、「ハートビル法」「熊本県やさしいまちづくり条例」等の基準を満足すると共に、ユニバーサルデザインを積極的に取り入れていく。
- ・ 資源の再利用や、自然環境等に配慮した施設を整備する。
- ・ 環境への配慮から、既存施設を長く有効活用する。また、省資源、省エネルギー化など、環境への負荷の低減に配慮した施設を整備する。
- ・ 既存の緑地は極力保存し、都市のヒートアイランド化や地球温暖化対策に配慮するとともに、快適な空間を保全する。

3) 地域との連携や周辺環境との調和に配慮した施設の整備

- ・ 親子の交流や子育て相談等を通じた家庭や地域と連携を可能とする施設を整備する。

4.2 施設整備計画

4.2.1 具体的整備計画

1) 既存校舎の改修

本施設は昭和46年に建設された建物で、経年による老朽化が著しい。また、相談室やPTA室、図書室等が不足している。老朽解消を行うに当たっては、既存施設の利用状況を点検し、機能の集約化や効率化を進めることにより、不足している諸室の充実を図ると共に、快適に生活ができるよう、場に応じた材料、色彩計画、適切な室内環境や吸音・遮音性等を備えた環境を整備する。また、一部の建物においては耐震性能が低いため、必要な耐震補強を行う。なお、将来において、幼稚園の移転の可能性についても検討する。

2) 北門の整備

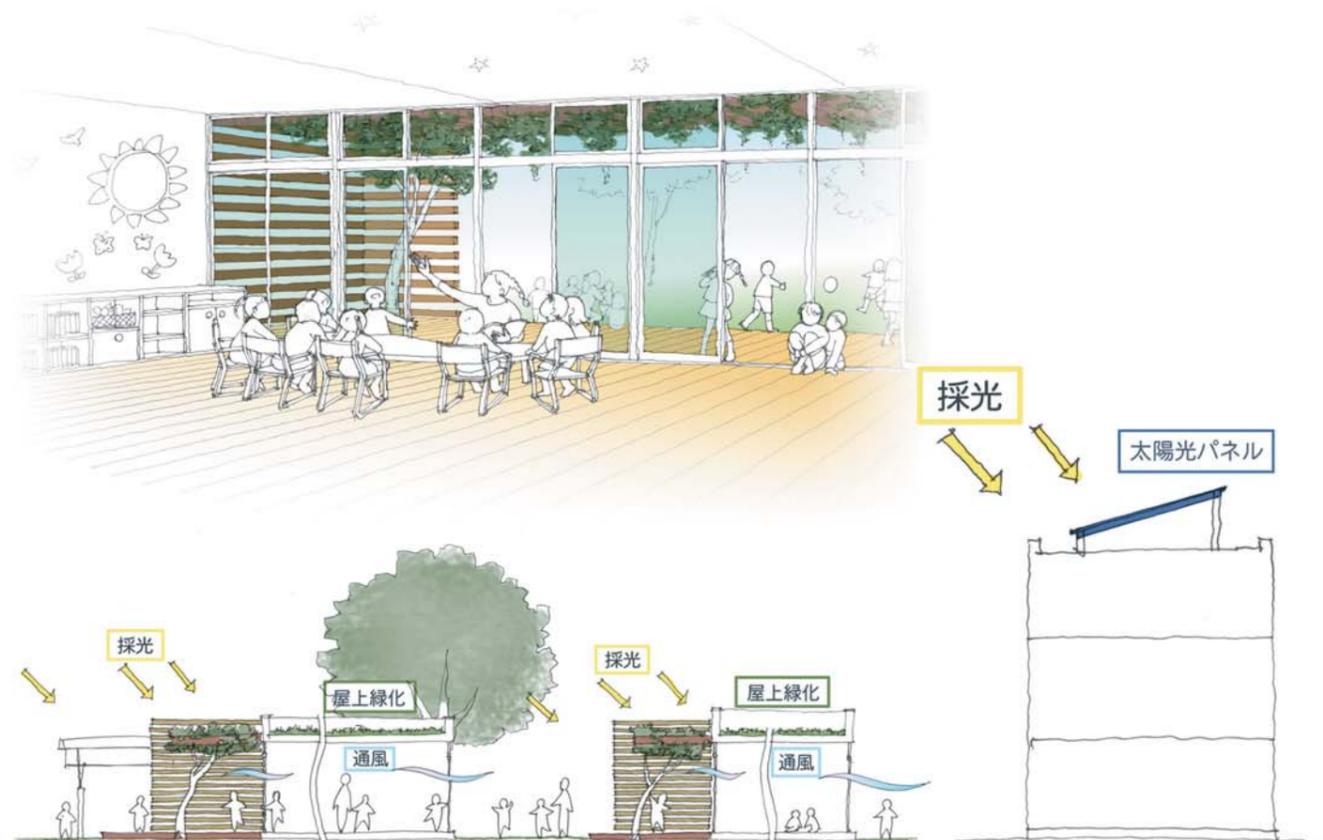
北門は交通量の多い市道から園内駐車場へのアプローチとなっている。現在は門の前に滞留スペースが無いため、門の開閉時に車両後部が市道にはみ出し危険な状況にある。今後、市道からのアクセスをスムーズに行えるよう早急に北門の改修整備を行う。その際、園内のセキュリティーについて十分配慮する。



北門



改修後のイメージ



4. キャンパス計画

4.2 施設整備計画

4.2.2 設備計画

現在、城東町キャンパスにおいては、全ての建物が築後36年を経過しており、建物のみならず屋外インフラ幹線となる電気、水道、ガス等のライフラインの老朽化も著しい。今後は学習環境を支えるための基盤として、安全性や効率性、地球環境に配慮した設備計画を行っていく。

1) 周辺環境、地球環境に配慮した設備計画

地球温暖化防止のためCO2等の温室効果ガス排出量の抑制を図った環境に優しい計画とする。

2) 設備機能の信頼性を高める設備計画

設備機能の支障は教育研究に重大な影響を及ぼすため、設備機能の低下あるいは停止等が発生しない信頼性、安全性の高いシステムを構築する。

3) 省エネルギー計画

高効率型機器の採用、熱負荷の低減、エネルギーの有効利用、自然エネルギーの利用等を考慮した計画とする。

1. エネルギー供給(現状)

1) 電気設備	電力供給方式
① 引込み	架空線で電力会社より低圧引き込み
2) 機械設備	
1・空調設備	
① 空調方式	ガス式によるビルマルチ方式。 平成9年度設置 保育室はガス式遠赤外線暖房方式。 平成3年度設置
2・熱源設備	
① ボイラ	設置していない
3・給水設備	
① 水源	なし
② 市水	使用量 1,480t/年(使用先は飲用、洗浄用、給食用、プール用)
③ 給水方式	市水直圧方式 基幹配管は、平成15年度に取り替え。 露出配管(一部土中配管)
4・排水設備	※本団地は分流式である
① 一般排水	直接公共下水道へ放流
② 汚水排水	直接公共下水道へ放流 排水管の沈下や破損箇所がある。
5・都市ガス設備	平成12年度天然ガスに転換
① 使用先	主に空調(暖房を含む)用一部給食用に使用 (年間使用量3,490m ³) 2系統引き込み 基幹配管は、老朽化のため腐食が懸念される。

2. 情報通信設備(現状)

1・電話設備	架空線でNTTより引き込み
--------	---------------

3. 廃棄物処理(現状)

① 一般廃棄物	産業廃棄物処理業者へ委託処理
② 不燃物	産業廃棄物処理業者へ委託処理

1. エネルギー供給(計画)

1) 電気設備	電力供給方式
① 引込み	現状と同じ
2) 機械設備	
1・空調設備	
① 空調方式	現状と同じ 全熱交換器の使用により、省エネルギー設計を考慮する。
2・熱源設備	
① ボイラ	設置計画はない。
3・給水設備	
① 水源	井戸の計画はない
② 市水	現状と同じ(年間使用量現状と同量見込)
③ 給水方式	現状と同じ プール用配管及び枝配管を更新する。
4・排水設備	※本団地は分流式である
① 一般排水	現状と同じ
② 汚水排水	現状と同じ 配管は更新する。
5・都市ガス設備	現状と同じ(年間使用量現状と同量見込)
① 使用先	構内引き込み管の統合を図り、基幹配管の更新を行う。

2. 情報通信設備(計画)

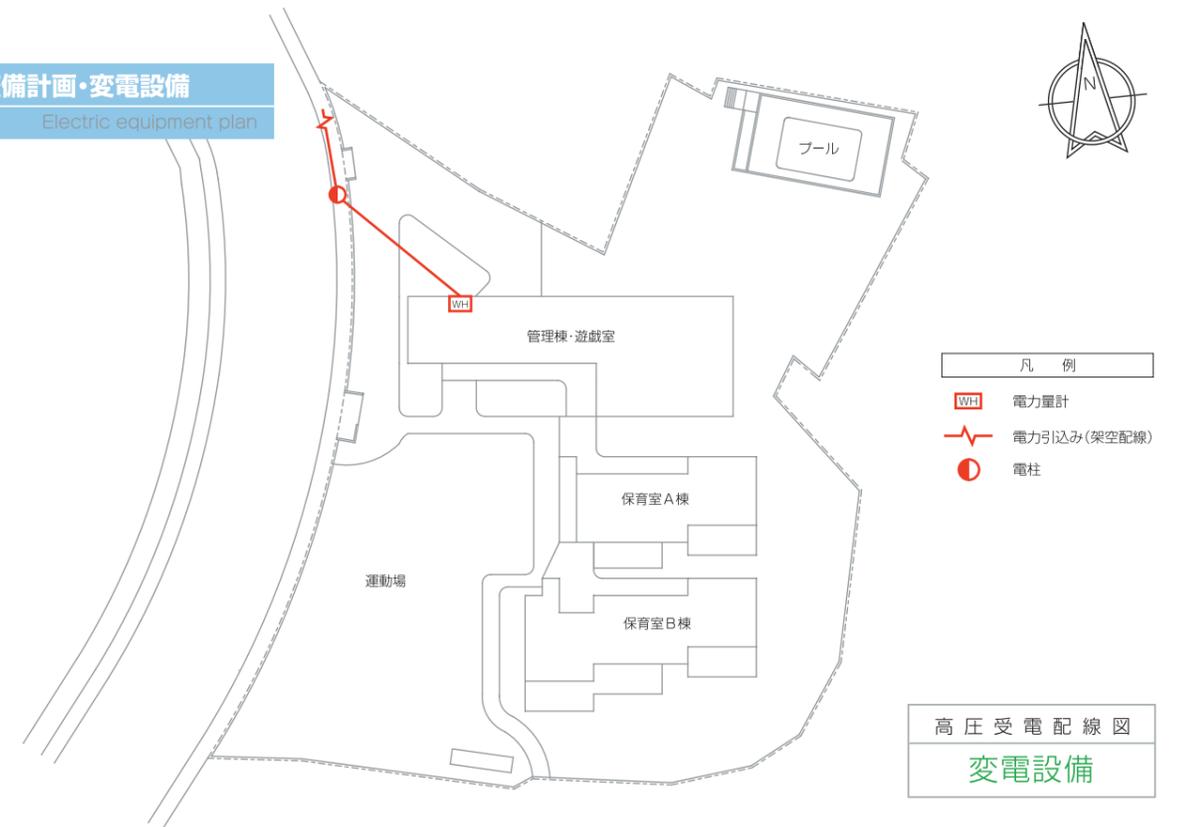
1・電話設備	現状と同じ
--------	-------

3. 廃棄物処理(計画)

① 一般廃棄物	現状と同じ
② 不燃物	現状と同じ

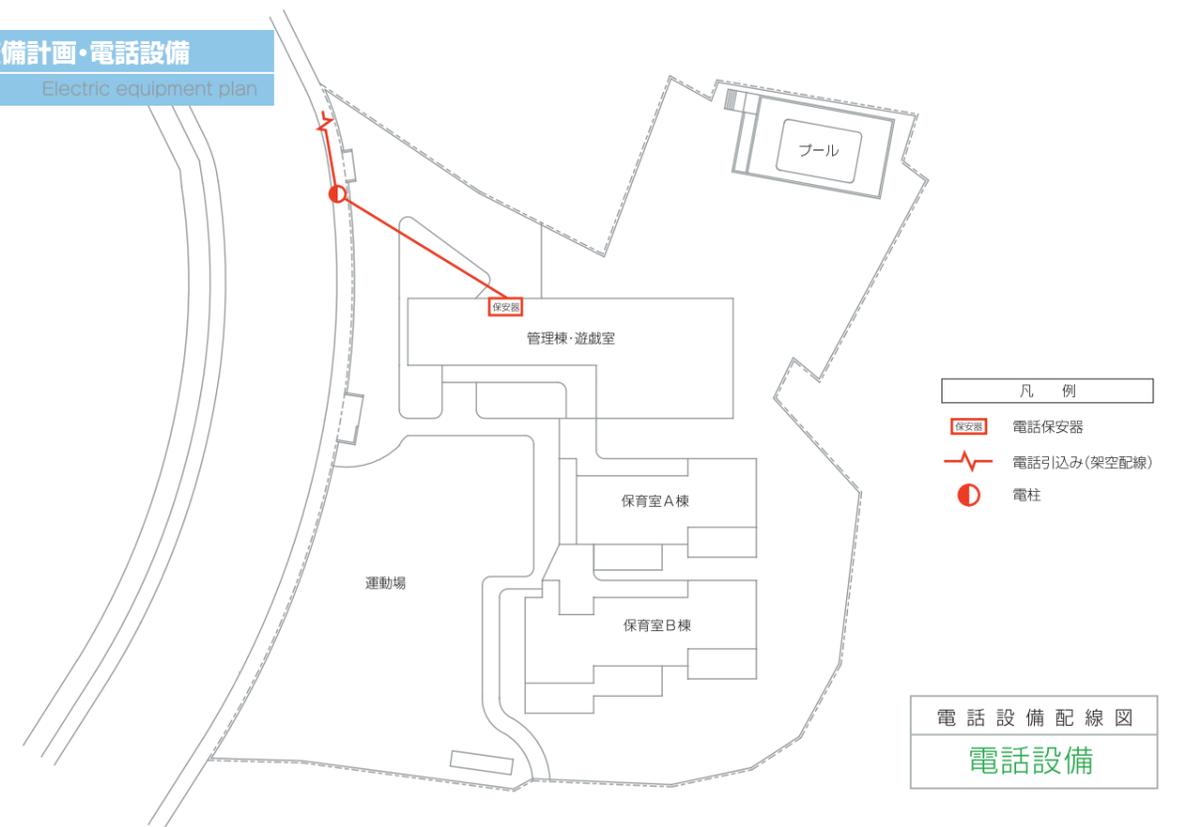
電気整備計画・変電設備

Electric equipment plan



電気整備計画・電話設備

Electric equipment plan



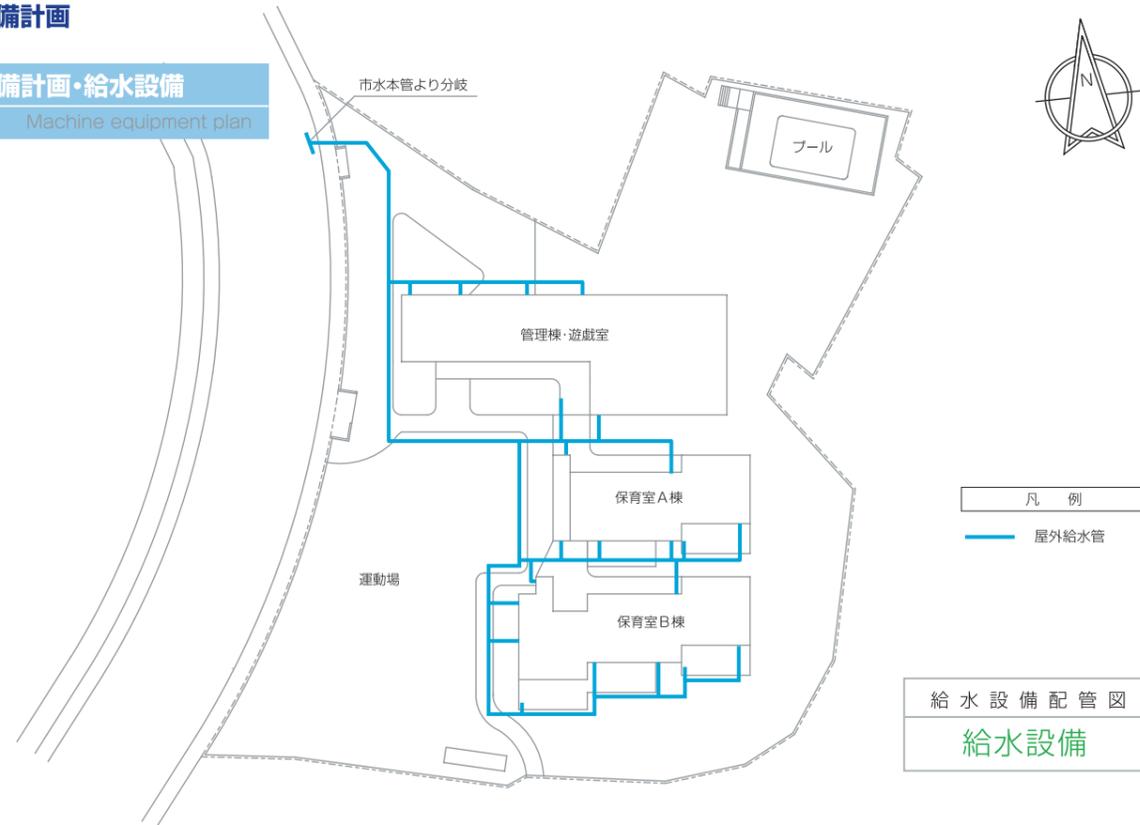
4. キャンパス計画

4.2 施設整備計画

4.2.2 設備計画

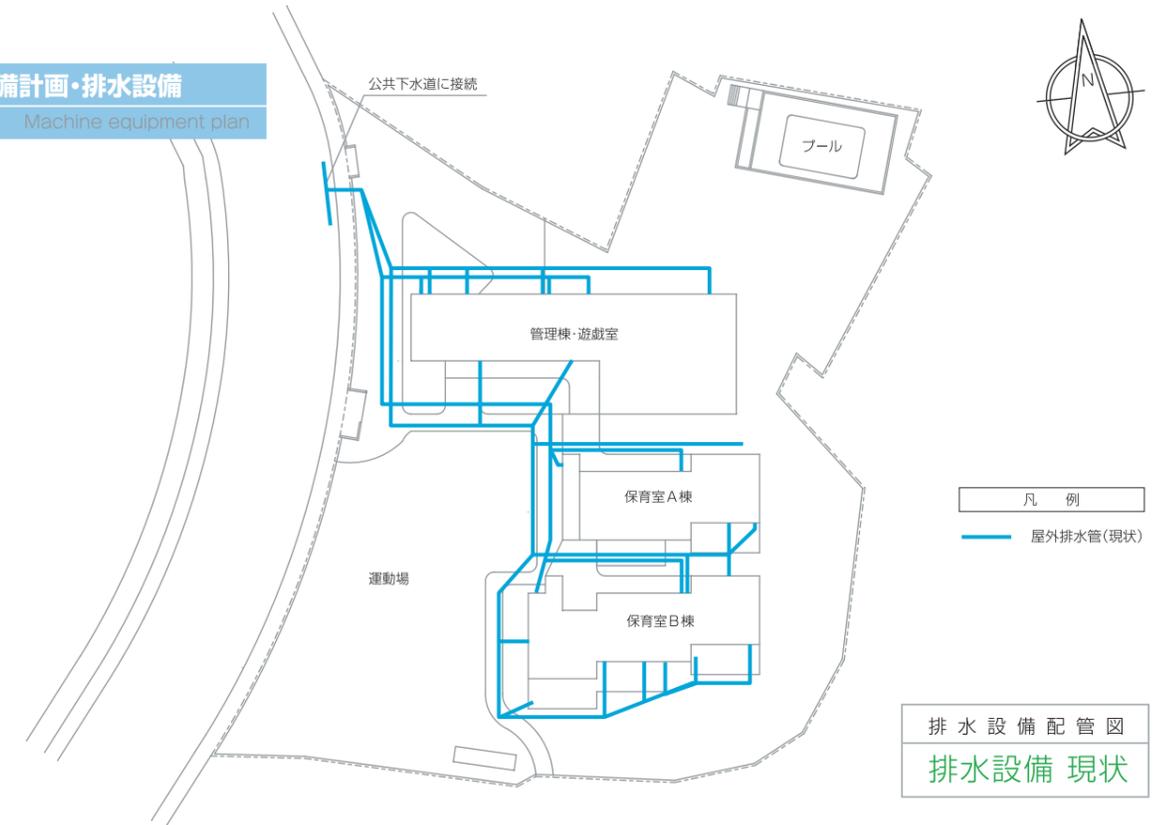
機械整備計画・給水設備

Machine equipment plan



機械整備計画・排水設備

Machine equipment plan



機械整備計画・ガス設備

Machine equipment plan

